

第5回 公益財団法人 Uビジョン研究所

第5期 事業計画

～2020年4月1日から2021年3月31日～

今年度の事業計画の重点目標は、昨年度から継続事業となるUビジョン研究所の事業を多くの高齢者施設を運営する事業所に知ってもらうことと認証「悠」を広げていくことに力を注いでいきます。

さらに、今年度は中長期計画を策定し変動するニーズに対応できるように、単年度ごとにしっかり実行していけるように努めていきます。

介護保険制度から20年の節目でもあり、高齢者は人生100年時代に家族がおらず一人になっても、認知症になっても最期まで安心して安全に生きることができるよう、サービスの質の高い施設を増やしていくことが必要だと考え市民のニーズに応えられるように全力を尽くします。

事業の柱である「認証事業」は、2019年度で6施設（2012年2月に第1号から2020年3月までの8年間で認証審査回数は総計15回、抜き打ち調査は総計21回となった）となった。しかし、認証を取得する施設は、3年に1施設が増えている状況で遅々としている。その状況を変えるため、昨年度に2回ランチミーティングを行い、認証「悠」取得の課題について認証取得施設の意見を聞き、運用規程を見直しました。さらに、具体的なPRの方法として、介護保険制度20年の機に「2020 高齢者の人権を守る施設宣言」を行い、資金は、助成金と企業支援、クラウドファンディングを活用して実行していきます。6月を目処に企業に働きかけていきます。助成金やクラウドファンディング。企業支援の寄附が予定どおり行かない場合においても、ポスターの枚数を少なくし、研修などで行ける県においては時間を作って配布できるように内容を縮小しても実行はしていきます。PRについてはこれまで関わりのあるマスコミや専門誌に掲載、ホームページ、フェイスブックなどを活用していきます。

評価者養成は認証件数が少ないために増やしていませんが、需要を見て行います。調査票は毎年、介護保険法の改正や基準改正に伴い見直しをします。

「講師派遣」事業は、2014（平成 26）年 4 月から 2020（令和 2）年 3 月までの推移を見ると、平均回数 49.7 回、平均日数 91.3 日となっています。

20 年度における社会福祉法人を取り巻く状況は、昨年度以上に、人件費に財政が使われる可能性が高いことから、1 施設における研修回数を増やすよりも、もっと数多くの施設で研修を増やしていくことに努めます。

「広報誌」は例年どおり、年 4 回（3 月、6 月、9 月、12 月）発行します。内容や構成において好評を得ており、高齢者の会員も多いことから紙媒体の情報提供は重要であり、時代を反映させた内容にしていけるよう取り組みます。

ホームページは新しい情報が常に提供できるように刷新していきます。

「セミナー」はトップマネジメントセミナーを社会福祉法人生活クラブ風の村特養ホーム八街で開催します。これまでの参加費を見直し（参加費を下げる）、より多くの人に参加してもらえるようにします。

「寄附金と賛助会員」は、個人賛助会員は増減（自然退会など）があり、増やしていくのは難しい状況にありますが、マスコミに掲載されることで U ビジョン研究所の活動を知ってもらえるようにし、会員増につながるようにしたいと思います。法人賛助会員も減少傾向であり、企業への PR に関して、多方面で活躍する人の意見やアドバイスを積極的に聞いて実践していきます。寄附金は定期的・継続的に支援している方たちが継続できるようなメッセージを送りつつ、寄附してよかったと思えるような活動と報告をします。「基金」は昨年度 1 つ増え、合計 9 つになりました。毎年 1 基金増えている状況です。

今後、ご遺産やご遺贈が基金として活用されることを市民に発信し、社会貢献活動がさらに広がっていけるようにします。

「事務局」においては、勤務時間が週 30 時間で、残業ゼロを目指しており、昨年度は年間総時間 10 時間を切っています。今年度も維持していきます。

非常勤の職員に対して、夏休みを 3 日間取れるようにしています。年末年始は 12 月 25 日から翌年 1 月 5 日までの休みです。

理事長 本間郁子

予算

(単位：円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
寄附金 (会費・寄附金)	10,000,000	事業費	883,004
事業収入 (認証・講師派遣等)	10,570,615	管理費(人件費・交通費・ 家賃・顧問料)	18,842,728
雑収入	250	当期活動収支差額	845,133
合計	20,570,865	合計	20,570,865